

(様式 3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	香川県	市町村名		大学名	
派遣日	令和 3 年 1 2 月 2 3 日 (木曜日) 1 3 : 2 5 ~ 1 6 : 2 5 1 3 : 2 5 ~ 1 6 : 2 5 研修会				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 派遣 / 遠隔				
派遣場所	Cisco Webex Meetings によるオンライン講習				
アドバイザー氏名	大菅 佐妃子				
相談者	<ul style="list-style-type: none"> ・香川県教育委員会 ・香川県国際交流協会 アイパル香川 ・市町教育委員会日本語指導担当者 ・日本語指導を必要としている児童生徒（以下「児童生徒」）が在籍している小中学校担当教員 ・実際に日本語指導を担当している教員、教育活動支援員 				
相談内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、市町教委、地域、県教委等、それぞれの立場でできる指導、また、校内の連携（日本語指導者・通訳者の役割）、保護者との連携、地域との連携等、指導体制づくりに必要なこと ・外国人児童生徒の受入れに当たり、教員・学校に求められる準備、心構え、サポート体制について（校内での支援体制をどのように作っていけばよいか、具体的な事例があれば事例を交えて教えていただきたい） ・中学生になって来日した場合、ほとんどの場合が日本語も教科の学習も分からない状態にある。中学生には入試が待っているが、香川県には外国人児童生徒のための特別枠が設置されていない。高校に進学させるためのキャリア支援として必要な取組について ・アイデンティティの確立が難しく消極的な児童生徒が、学校で楽しく生活するために関係者がそれぞれの立場でできることについて 				
	<p>【日本語指導が必要な児童生徒の在籍状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導が必要な外国籍・日本国籍の児童数は増加傾向にあり、母語はポルトガル語・中国語・フィリピン語の児童生徒が多い。また、多言語化・散在化している傾向もある。 ・近年、高等学校へ進学する生徒も増えてきているので、キャリア支援の必要性も高まっている。 <p>【外国人児童生徒等教育の位置づけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 2 6 年の「特別の教育課程」制度の導入や平成 2 8 年「義務教育の段階におけ 				

(様式 3)

<p>派遣者からの指導助言内容</p>	<p>る普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」等を受け、児童生徒の学びを保障する点からも、各県、市町の教育ビジョン内に児童生徒教育に関する項目を設け、明確な位置づけをすることが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領総則に特別な配慮を必要とする児童への指導について「日本語の習得に困難のある児童」が位置づけられたことで、現在加配定数で配置されている教員が今後、基礎定数として配置されるようになる。 <p>【子どもの言語習得】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言語習得は、言語形成前半期（0～10歳程度）に「母文化の習得」「会話力の基礎」「読み書きの基礎」が養われ、言語形成後半期（11歳程度以降）に「読解力・作文力」「抽象的語彙・漢熟語」が養われる。そのため、児童生徒も言語形成前半期に関わる日常的な会話は1～2年で習得できるが、言語形成後半期に関わる学習言語能力の習得には5～10年かかると言われている。 ・ 母語の発達が完成しないまま来日し、母語も日本語も年齢相応レベルに達していないダブルリミテッドバイリンガルの児童生徒は学力が向上しにくい。その背景には、言語に関する知識・理解、思考・認知の力、抽象的な概念の理解等を総称した共有基底言語能力がある。この能力はある言語が発達すると他の言語にも影響するため、日本語指導を請け負う学校では、第2言語である日本語が年齢相当のレベルに達するよう指導することが学力保障につながる。 <p>【学力を支える二つの柱】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学力を支える2つの柱とは、「アイデンティティの確立」と「学習参加ができる授業」のことである。 ・ アイデンティティの確立、つまり自分のルーツに誇りをもつことは、異文化交流の理解・言語指導・教科指導の全てを支えるものとなる。児童生徒を知ろうとする教師の姿勢や互いを認め合える学級集団があることで、自分のルーツに誇りをもつことができる。そのため、実際の学校での支援にあたっては、母国の紹介をして文化の違いを共有したり、在籍学級の子どもが母語による授業を経験し児童生徒の立場を理解したりする活動をすることでお互いを認め合える学級集団を醸成していく必要がある。また、クラブ等で外国の料理を食べるなどの国際理解教育も積極的に行っていくことで更なる指導効果をねらうことができる。 ・ 学習参加ができる授業を行う前提として、児童生徒が授業に困難を感じる「学習内容そのものが未習得・未経験」「母国との学習形態や指導法の相違」「日本の文化背景や生活習慣に関する知識不足」「多人数への発話を聞き取る力の不足」「理解できた内容を表現する力の不足」の5つの視点で母国での生活経験、学習経験の把握をする必要がある。 ・ 日本語が分からないことに配慮し、ひらがなのプリント等クラスのみならず違った課題をさせることは児童生徒の疎外感・劣等感を大きくする可能性がある。そのため、児童生徒のできることに目を向け導入部分で参加可能な学習活動を取り入れることで学習意欲が向上する。 <p>【現状把握と共通理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受け入れ面談の段階で、国籍・名前・学校での呼び名、就学歴・既習事項、好きな教科・嫌いな教科・得意なこと等の聞き取りを行い、指導・支援を管理職・学級担
---------------------	---

(様式 3)

	<p>任・養護教諭・日本語指導担当教員・支援員等で共通理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の学習上のつまずきは、日本の子供たちのつまずきと一致することが多い。そのため、児童生徒が学習内容を理解したり、学習活動に参加したりするための支援は学級にいる全ての子供たちにとって有効な支援となる。指導者はこのようなユニバーサルデザインの考え方で授業の準備をすることが理想である。 ・児童生徒への支援を考える際には、「視覚化・例示・言い換え等の理解支援」「モデル・キーワード等の表現支援」「視覚化・身体化・物語化等の記憶支援」「自分で学べるようにする自律支援」「意欲的に学べるようにする情意支援」を視点とすればよい。 <p>【子どもたちをつなげる取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちをつなげる取組には次のようなものがある。※京都市で実施している例 <ol style="list-style-type: none"> ①中学卒業後の進路について聞くこと、先輩生徒の体験談を聞くこと、保護者による言語別グループ相談会を開くことで内容が構成される「多言語進路ガイダンス」 ②他地域に住む児童生徒をオンラインでつなぐ「少数在籍校同士の交流『母国の紹介』」
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のように、日本語指導に関わっている教員や教育活動支援員の方々が集まり、研修だけでなく情報交換ができる機会を年に数回もつようにしたい。県下一斉に実施することが難しくても、近隣の市町や中学校区ごとでの実施は可能だと思うので、日本語指導に関わっている者同士のコミュニティも大切にしていきたい。 ・実践事例であった先輩生徒の話を書くことのように「同じ立場の先輩の話を書く」ということは、非常に大切だと感じた。また、児童生徒を高校に進学させた親の話や保護者にしてもらったり、県内の大学に在籍している留学生の話を書いたりすることもキャリア支援やアイデンティティの確立につながると感じた。 ・母語を大切にすること、日本語が分からなくてもできることはたくさんあるということに、現在、児童生徒が持っている力を最大限生かしてできる支援の方法をいろいろと考えていき、日本語の定着も大事だが、まずは勉強が楽しいというように学習意欲を高める指導が大切であるということを再認識する機会になった。 ・本県では、これまで日本語指導を行ってきた教員や指導員にとっては、互いに顔を会わせて話し合う機会がほとんどなかったため、大変有意義な研修会になった。参加者からは、個々が抱えていた悩みについても共有することができたので、各自が今後の指導に変化をつけていく動機付けになった、早速教えていただいた教材を使ったり、指導法を試したりしながら頑張っていこうと背中を押していただいた等、前向きな意見が多く聞かれた。 ・今後も外国人児童生徒数は増加することが予想され、それとともに受け入れる学校数も増加することが考えられる。市・県教育委員会が連携して、今以上に関係機関と連携を深める必要があり、管理職や日本語指導教員の意識改革を図っていく。

1枚にまとめる必要は、ありませんので、詳細に記載願います。なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。